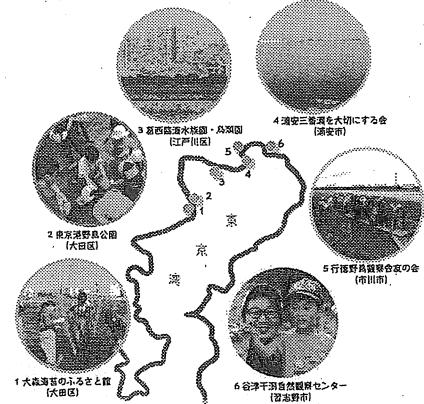


千瀬の埋め立てなどの開発によって、東京湾と接する機会は以前より減り、身近な海として東京湾を実感できる方は決して多いとは言えないのが実状ではないでしょうか。

本プロジェクトの発足は、昨年10月に開催された東京湾大感謝祭での施設や団体の交流会がきっかけでした。集まつたのは、東京湾の千葉等を自然の体験や環境学習などで活用する機会を提供す

て活動するこ
とを決
め、今
年3月
に発足
しまし
た。ブ
ロジェ
クトに
は、自
治体が

東京湾の窓 PT
東京湾の施設や団体がつながり、みちからを会う“窓”になろう！
**窓をひらくと、すぐそこは
ワールド**
生きものいっぱい東京湾！



東京湾大感謝祭で展示した
東京湾の空PTポスター



東京湾大感謝祭での東京湾の窓PTコーナー（平成28年10月23日）

東京湾再生官民連携フォーラム

東京湾の窓PT長

芝原達也

(谷津干潟自然観察センター指定管理者)
谷津干潟ワイスユース・パートナーズ

東京湾の保全を進める主体は誰でしょう。行政担当者? 研究者? 技術者? どなたもそれぞれ役割がありますが、流域人口約3000万人と言わざる市民の参画が重要です。

しかし、東京湾を身近に感じ、東京湾の生態系の恩恵を受けていると実感できる方はどれほどいらっしゃるのでしょうか。また東京湾再生の課題を理解している方はどうすればどういらっしゃるので

本プロジェクトの趣旨は、東京湾に関連する既存の施設や団体がつながり、それぞれが東京湾と市民を結ぶ「東京湾の窓」として機能していくにはどのような取り組みをしていけば良いのか検討し、提案をまとめるこ

る施設や団体の皆さんです。東京湾のために何か協力してできないか、そんな思いを持った人たちが集まりました。この会合で東京湾再生官民連携フォーラムのプロジェクトとして活動

設置した公園・施設のスタッフ、東京湾で活動する市民団体のメンバー、大学教員、NGOスタッフ、新聞記者、釣具販売社員など多様なメンバー13名が参加していくま

成、④東京湾の体験の二
一ズの掘り起しの必要性等です。①と④については、様々な娛樂が社会に溢れる中において、東京湾を体験する活動はアピールできていいのか、情報発信をしてそれを

今後の展望ですが、2020年にオリンピック・パラリンピック東京大会が開催されます。内外に向けて、東京大都市圏を後背地とする東京湾と市民の共生をアピールするチャンスです。本ア

③施設の共通コンテナによる取り組みを利用した連携推進。
 ④東京湾の文化的資源の再構築・価値化、利用の推進。

口ジクトでは、2001年までに以下の取り組みを進め、提案をまとめしていく予定です。

①行政の枠組みや活動拠点を横断する連携の仕組みについての検討。

④ 東京湾の文化的資源の再構築・価値化、利用の推進。

一 設置した公園・施設のス

成、
④東京湾の体験の一

今後の展望ですが、

②東京湾の保全に関する